

理科 第4学年 冬の星 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：既習の内容や生活経験を根拠に、「時間がたつと、星の位置や星同士の並び方はどうなるだろうか」について予想を立て、調べた事実と関係付けて表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(5)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：地上の動かない目印と方位を付けた星の記録を異なる時刻で比較し、星同士を結ぶ形と地上からの位置を別々に読む。自分で夜に観察できない場合も学校が用意した記録で同じ比較をする。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(5)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：星の並びが変わったと考える場合、紙の向きや見た方向が同じかを先に確かめる。写真の明るさの違いを星本来の明るさと同じとは限らないと注記する。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(5)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。位置と並び方を区別して話す活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：夜間は児童だけで観察しない。道路や屋根へ出ない。家庭観察を必須にせず、教師の観察記録や安全な観察施設の画像を用意する。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(5)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：地上の動かない目印と方位を付けた星の記録を異なる時刻で比較し、星同士を結ぶ形と地上からの位置を別々に読む。自分で夜に観察できない場合も学校が用意した記録で同じ比較をする。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全2時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「時間がたつと、星の位置や星同士の並び方はどうなるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「時間がたつと、星の位置や星同士の並び方はどうなるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。変わるものと変わらないことを説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

